

第112期中間株主通信

(2024年1月1日～2024年6月30日)



株主の皆様へ



代表取締役社長 高村 美己志

POINT

- 拡販活動やコストダウンに注力し、基幹化学品や車載用電池向け接着剤など多くの製品で販売数量が増加したことにより、増収増益。
- 研究所や海外拠点の設立、製造設備増強など、今後の成長に寄与する投資を着実に実行。
- 中間配当金は10円増配の1株当たり30円。年間配当金は1株当たり60円を予定。
2024年の自己株式取得枠を70億円へ拡大。

Q 当中間連結会計期間の概況についてお聞かせください。

A 当中間連結会計期間（2024年1月1日から2024年6月30日まで）の世界経済は、米国の景気は堅調に推移し、欧州の景気は緩やかに回復しました。一方、中国では不動産市場の低迷や個人消費の伸び悩みなどの影響があり、景気は低迷しました。このような状況下、当社グループは、拡販活動やコストダウンに注力するとともに、研究所や海外拠点の設立、

製造設備増強など、今後の成長に寄与する投資を進めてまいりました。その結果、売上高は815億7千1百万円（前年同期比6.0%増収）、営業利益は73億2千3百万円（前年同期比54.3%増益）、経常利益は87億5千8百万円（前年同期比41.9%増益）、親会社株主に帰属する中間純利益は70億4千1百万円（前年同期比28.7%増益）となりました。

Q 通期の見通しについてお聞かせください。

A 第3四半期以降の経済状況は、地政学的リスクや各国の政治動向など、先行きは不透明ではありますが、緩やかな景気の回復が続くことが期待されます。

堅調な需要により販売数量が増加してきた分野や開発製品もあることから、2024年12月期通期の業績に

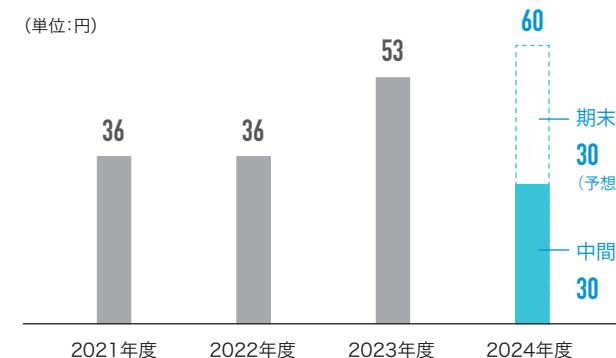
つきましては、2月13日に発表した連結業績予想を7月31日に修正いたしました。売上高は1,700億円（前年同期比6.7%増収）、営業利益は155億円（前年同期比24.0%増益）、経常利益は175億円（前年同期比20.7%増益）、親会社株主に帰属する当期純利益は128億円（前年同期比5.1%増益）と予想しております。

Q 株主還元についてお聞かせください。

A 株主還元につきましては、連結配当性向30%程度・連結総還元性向50%程度を目途に安定的な配当の継続と連結総還元性向の向上を図ることを基本的方針としております。これに加え、PBR改善に向けた取組みの一環として、2023年から2025年の中期経営計画期間は、期間総還元性向100%を目途に株主還元を行い、資本効率の向上を図っております。

当中間期は、前年同期比増収増益となり、資本効率向上の観点に加え、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、中間配当金は前年同期比10円増配の1株当たり30円といたします。期末配当金につきましては、中間配当金と同額の1株当たり30円とし、年間配当金は1株当たり60円とする予定です。また、株主還元を一層充実させるため、増配だけでなく、2024年の自己株式取得枠を70億円へ拡大いたします。

1株当たり年間配当金の推移



● 予想数値には、本決算発表日現在入手可能な情報に基づく予測が含まれております。実際の業績は、今後さまざまな変動要因により、本誌数値と異なる可能性があります。

■ セグメント別概況

セグメント別売上高・営業利益

(2024年度中間期)

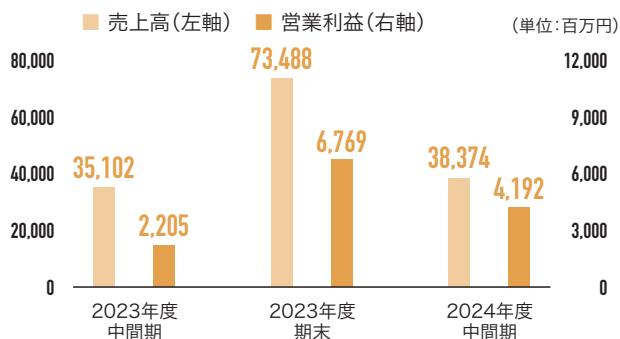
	売上高(百万円)	営業利益(百万円)
■ 基幹化学品事業	38,374	4,192
■ ポリマー・オリゴマー事業	17,246	2,123
■ 接着材料事業	6,591	232
■ 高機能材料事業	5,080	586
■ 樹脂加工製品事業	13,301	647
■ その他・調整額	975	△459
合計	81,571	7,323

セグメント別売上高比率



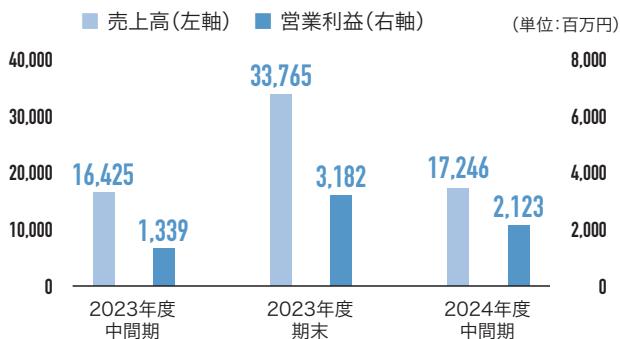
■ 基幹化学品事業

電解製品は、一般的に販売数量が増加し、増収となりました。アクリルモノマーは、販売数量増により、増収となりました。工業用ガスは、堅調な需要による販売数量増で、増収となりました。これらの結果、当セグメントの売上高は383億7千4百万円(前年同期比9.3%増収)となりました。営業利益は、電解製品をはじめとした販売数量増により、41億9千2百万円(前年同期比90.1%増益)となりました。



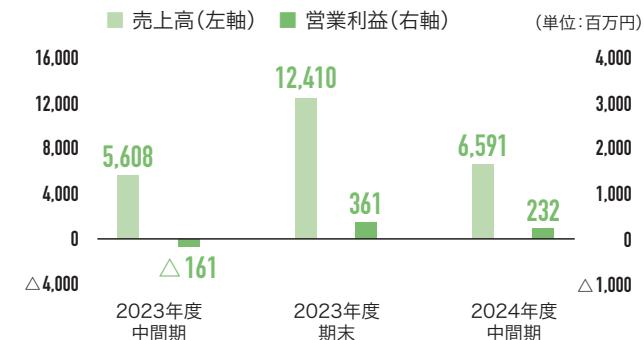
■ ポリマー・オリゴマー事業

アクリルポリマーは、自動車部品向けの販売数量増により、増収となりました。アクリルオリゴマーは、ディスプレイ関係向けの販売数量増により、増収となりました。高分子凝集剤は、海外向けの販売数量減により、減収となりました。これらの結果、当セグメントの売上高は172億4千6百万円(前年同期比5.0%増収)となりました。営業利益は、アクリルポリマーとアクリルオリゴマーの販売数量増、高分子凝集剤の原燃料価格上昇に応じた販売価格改定などにより、21億2千3百万円(前年同期比58.6%増益)となりました。



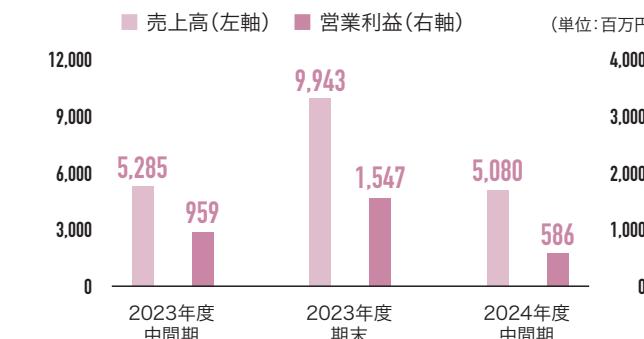
■ 接着材料事業

家庭用は、日本および米国での販売数量増により、増収となりました。機能性接着剤は、車載用電池向けやスマートフォン用電子部品向け接着剤の販売数量増により、増収となりました。これらの結果、当セグメントの売上高は65億9千1百万円(前年同期比17.5%増収)となりました。営業利益は、自動車部品やスマートフォン用電子部品向け販売数量増により、2億3千2百万円(前年同期は1億6千1百万円の損失)となりました。



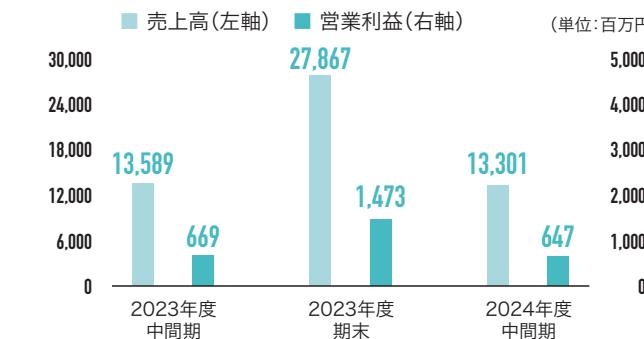
■ 高機能材料事業

高純度無機化学品は、前年並みの売上高となりました。無機機能材料は、電子部品向けのイオン捕捉剤の販売数量増により、増収となりました。また、新製品開発関連は、メディカルケア製品の販売数量減により、減収となりました。これらの結果、当セグメントの売上高は50億8千万円(前年同期比3.9%減収)となりました。営業利益は、高純度無機化学品の減価償却費の増加等により、5億8千6百万円(前年同期比38.8%減益)となりました。



■ 樹脂加工製品事業

管工機材製品は、住宅着工戸数低迷により販売数量が減少し、減収となりました。ライフサポート製品は、一般的に販売数量が減少し、減収となりました。エラストマーコンパウンドは、前年並みの売上高となりました。これらの結果、当セグメントの売上高は133億1百万円(前年同期比2.1%減収)となりました。営業利益は、ライフサポート製品の販売数量減の影響により、6億4千7百万円(前年同期比3.2%減益)となりました。



■ 連結財務諸表(要旨)

貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度末 (2023年12月31日)	当中間 連結会計期間末 (2024年6月30日)	増減額
流動資産	134,860	129,895	△ 4,964
固定資産	137,425	151,043	13,618
1 資産合計	272,285	280,939	8,653
流動負債	41,480	47,133	5,653
固定負債	18,287	16,814	△ 1,472
負債合計	59,767	63,947	4,180
純資産	212,518	216,991	4,473
負債純資産合計	272,285	280,939	8,653

損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月 1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月 1日 至 2024年6月30日)	増減額
売上高	76,947	81,571	4,623
売上総利益	19,062	22,723	3,661
販売費及び一般管理費	14,316	15,400	1,084
2 営業利益	4,746	7,323	2,577
経常利益	6,172	8,758	2,586
特別損益	1,423	892	△ 530
親会社株主に帰属する 中間純利益	5,469	7,041	1,571

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月 1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月 1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,607	14,255
3 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,454	△ 10,062
4 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,172	△ 8,990
現金及び現金同等物の中間期末残高	41,089	43,675

POINT 1

資産合計は、設備投資の増加により建設仮勘定が増加したに加え、保有株式の時価の上昇により投資有価証券が増加したため、前連結会計年度末に比べ86億5千3百万円、3.2%増加し、2,809億3千9百万円となりました。

POINT 2

営業利益は、基幹化学品や電子部品向け製品などの出荷数量の回復がみられ、前中間連結会計期間に比べ25億7千7百万円増加し、73億2千3百万円となりました。

POINT 3

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が増加したため、前中間連結会計期間に比べ支出が56億7百万円増加し、100億6千2百万円の支出となりました。

POINT 4

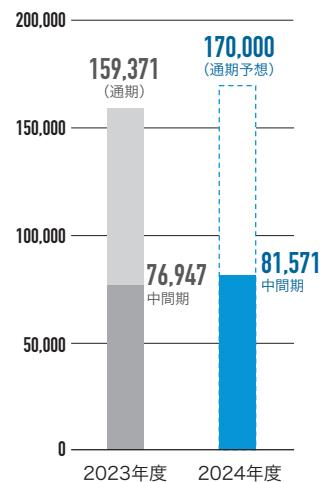
財務活動によるキャッシュ・フローは、非支配株主への配当金の支払額および子会社株式の取得のための支出が減少したため、前中間連結会計期間に比べ支出が41億8千2百万円減少し、89億9千万円の支出となりました。

■ 連結財務ハイライト

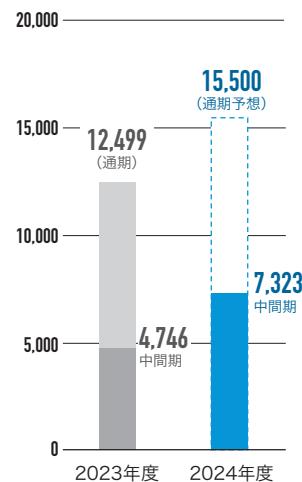
2024年度中間期

(単位:百万円)

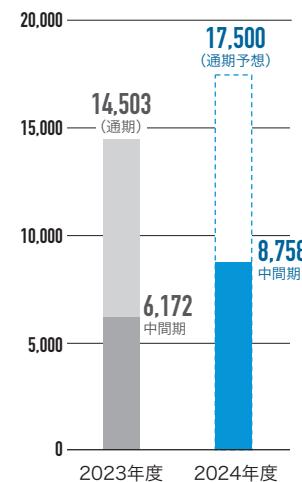
■ 売上高



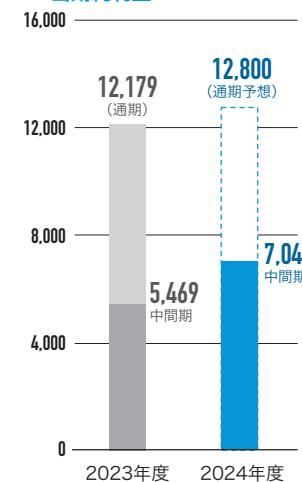
■ 営業利益



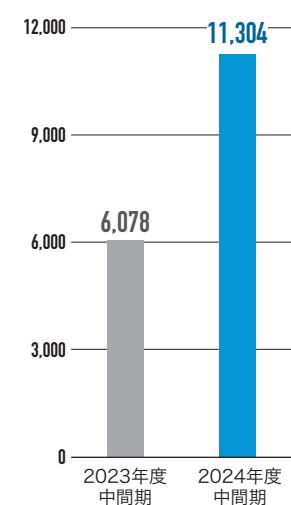
■ 経常利益



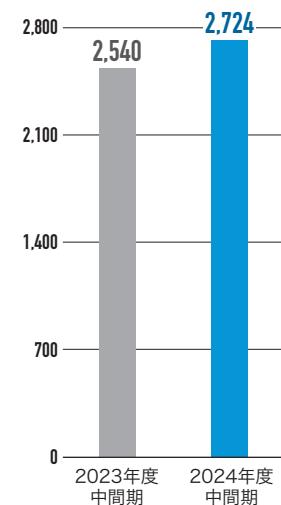
■ 親会社株主に帰属する 当期純利益



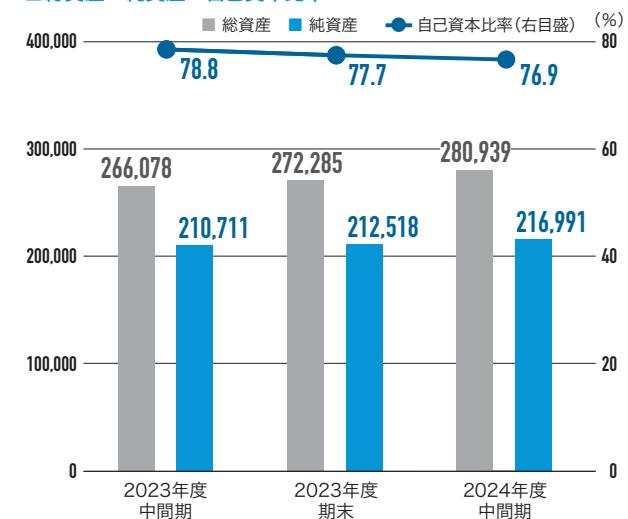
■ 設備投資額



■ 研究開発費



■ 総資産・純資産・自己資本比率



川崎フロンティアR&Dセンターの開設

当社グループは、新規事業の創出と高付加価値事業の拡大を推進するため、川崎市に新たな研究施設「川崎フロンティアR&Dセンター」を開設しました。川崎フロンティアR&Dセンターでは、バイオケミカルや電子材料分野などの高度な研究を可能とする専門施設・設備を整え、メディカルケア関連材料、セルロースナノファイバー、バイオ合成、次世代電池材料、半導体・電子材料などの成長分野における研究開発を行います。また、共同実験やデモ試験用のオープンラボスペースを設置し、首都圏の顧客や大学を含めた社外研究機関等との協創により既存事業の拡大を図る役割を担います。さらに、スタートアップ企業や海外顧客とも共同研究を実施し、独創的な製品を生み出すオープンイノベーションの拠点として活用することを目指します。

特徴

1 成長分野の高度な研究を可能にする専門設備

様々な専門実験設備を設置。設備を活用した高度な研究開発により、新規事業の創出および高付加価値事業の拡大を推進します。

▶ ドライルーム

超低湿度の環境に管理された空間。水分の影響を受けやすい電池材料や医薬品などの試験研究に利用。

▶ クリーンルーム

空気中の汚染物質（微粒子、微生物）が一定の清浄レベルに管理された空間。電子材料・半導体材料などの清浄度が要求される試験研究に利用。

▶ BSL実験室

一定レベルの危険性を有する微生物、ウイルスなどを安全に取り扱うための基準を満たした実験室。

2 顧客や社外研究機関などとの協創拠点

立地を生かし、首都圏および関東以北、海外顧客などと連携して製品開発を推進するほか、大学を含めた社外研究機関やスタートアップ企業などとの共同研究を通して、独創的な製品や技術を生み出すイノベーション拠点となることを目指します。そのために、共同研究やデモ実験を行うためのオープンラボや、技術交流や情報発信の場として活用できる多目的エリアを設けています。

3 アイデアの創出を促す研究環境

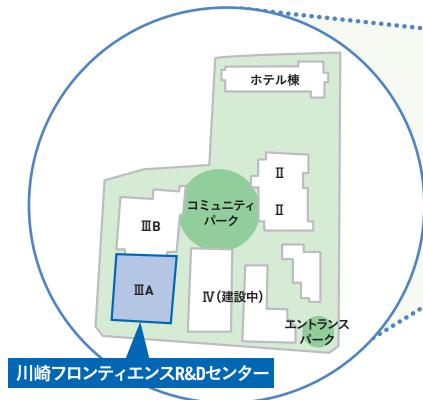
新しい製品や技術、事業を創造するには人と人との交流がアイデアの源泉になるという考えから、顧客との交流を図るオープンラボ、研究発表などのイベントが開催できる多目的エリア、事業部・営業・研究が一体となって活動する組織、所属を超えて交わるフリーアドレス、実験室とオフィスの距離を縮めるラボ内オフィス等、様々な取り組みを実施。働く人が、毎日ワクワクして仕事に臨めるような快適な環境づくりを目指しています。



研究施設RGBIII A棟3階に設置

概要

床面積：2,300㎡ 従業員数：約50名
 研究内容：メディカルケア、次世代電池、半導体・電子材料分野等
 所在地：神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-40
 RGBIII A棟3階
 (殿町国際戦略拠点キングスカイフロント内)



※ キングスカイフロント：国家戦略特区・国際戦略特区に指定されている川崎市殿町の再開発プロジェクトの対象エリア。世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点として多くの研究施設が集積する。

■ 株主メモ

- 事業年度…………… 毎年1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会…………… 毎年3月に開催
- 基準日…………… 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年 6月30日
- 公告の方法…………… 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞(東京)に掲載します。
公告掲載URL (<https://www.toagosei.co.jp/>)
- 株主名簿管理人…………… 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 特別口座の
口座管理機関…………… 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先…………… 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) **0120-782-031** (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

■ ご案内

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、特別口座で管理されている株式に関するお手続きについては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

各種手続用紙のご請求について(特別口座の株主様)

以下の手続用紙のご請求については、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社のインターネットで24時間お受けしております。

■ ホームページアドレス

- <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
- ・ 口座振替申請書
- ・ 単元未満株式買取請求書(特別口座用)
- ・ 配当金振込指定書(特別口座用)
- ・ 変更届(住所・氏名・届出印等)

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

「配当金計算書」について

配当金のお支払いの際に送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

■ 当社Webサイトのご案内

- 情報充実の当社Webサイトをぜひご覧ください

<https://www.toagosei.co.jp/>



東亜合成Webサイトトップページ



- 株式、決算関連についての詳しい情報は「株主・投資家情報」でご覧いただけます。

株主・投資家情報ページ



- 1 決算短信や有価証券報告書などIRに関する資料は「IR資料室」
<https://www.toagosei.co.jp/ir/library/index.html>
- 2 業績や財務状況の推移などのデータは「財務・業績情報」
<https://www.toagosei.co.jp/ir/finance/index.html>
- 3 株式に関する情報は「株主・株式情報」
https://www.toagosei.co.jp/ir/stock_information/index.html